

東京大学情報基盤センター

利用成果報告書

提出日：平成 28 年 3 月 17 日

申込課題名	低燃費タイヤ用ゴム材料設計を目指した大規模分子シミュレーション基盤技術の開発		
企 業 名	株式会社ブリヂストン		
フリガナ 代表者氏名		プロジェクトコード	
部 署 名		職 名	
利用計算機 システム	FX10 スーパーコンピューターシステム		
申込ノード数	24 ノード	利 用 期 間	平成 25 年 10 月 ~ 平成 25 年 12 月
成果公開 (※)	1. 即時公開 ②. 公開延期（成果公開予定：平成 28 年 4 月）		

※ 本報告書の内容は原則公開され、センター広報・Web ページに公開されます。ただし、利用者の申出により最大で 2 年間公開を延期することができます

- 本報告書は、利用期間終了後 1 ヶ月以内に東京大学 情報システム部 情報戦略課 研究支援チームまでご提出ください。
- 本様式の変更はできません。

受付日	平成 年 月 日	受付印
-----	----------	-----

※記入の際は各項目の枠内に収まるように記入してください。補足資料を付加することは可能です。

1. 利用の概略

1) 利用目的・内容

粗視化分子動力学法を用いたフィラー充てんゴムの解析

2) 利用意義（産業利用の観点から）

タイヤ産業においては循環型社会および低炭素化社会の実現のため再生可能資源の拡充と、製品ライフサイクルを通じた CO₂ 排出量削減への努力が続けられている。CO₂ 排出量削減のためには、タイヤのライフサイクルの中で、使用中における自動車の燃費としての CO₂ 排出への寄与が大半を占めることから、転がり抵抗を低減した低燃費タイヤの更なる進化が求められている。

本研究において粗視化分子動力学法によるフィラー充填系の大規模解析を行うことで、転がり抵抗低減ゴムの設計指針が得られると期待される。

3) スーパーコンピューターを利用する必要性

社内での解析においては対象空間が数十 nm 程度と小さく、取り扱えるフィラーの数も少ない。このため、大変形下ではフィラーの変位が十分に表現できなかった。これを数百 nm 程度まで拡大することにより、十分な変位が表現可能となる。本研究で必要とされる計算を社内で実施することは、必要なメモリ量と計算時間とから不可能であり、大規模計算が可能な FX10 スーパーコンピューターシステムの利用が必要である。

2. 成果の概要

1) 本利用で得られた成果（成果が得られなかった場合はその理由）

※ 内容を以下のうちから選択の上、計算機利用の観点から得られた知見を中心に記載してください。

（①. 計算科学、 2. コンピュータ・サイエンス、 3. プログラムチューニング、 4. その他）

今回の利用に関しては分子動力学シミュレータの LAMMPS[1]のコンパイルと並列化効率の測定を実施した。オプションの最適化後、250 万粒子系を 10 万 Step 平衡計算した場合の計算時間をプロットしたものが図 1 である。

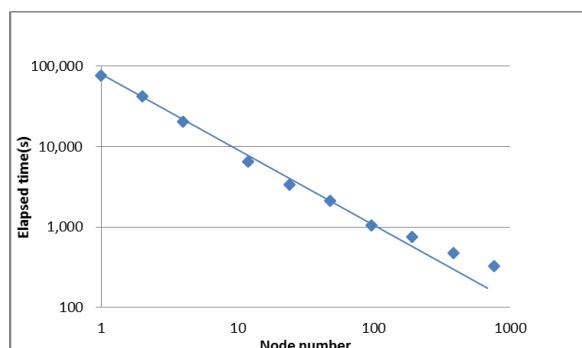


図 1

100 ノード程度まで線形性が保たれることから 1 コアあたり約 1500 粒子以上であれば計算効率の低下が少ないことが判った。

今後は上記検討に必要なモデルサイズの検討を実施する予定である。

[1] <http://lammps.sandia.gov/>

2) 社会・経済への波及効果の見通し

本研究を継続することでエネルギーロスが優れたゴム材料の開発が可能になり、転がり抵抗が少ない優れたタイヤを供給することが可能になると想定している。

3) 他の成果